



私にとっての「絆」。

一般財団法人地域社会ライフプラン協会 落合泰雄

私

は、仕事柄、2年に1回程度は引っ越しをしています。引っ越しをする上で、住所変更届けは忘れてはならないものであり、さまざまな契約をしているので、住民票、本人確認として必要不可欠な運転免許証の変更届けを終えたら、その他の変更届けの手続きを漏らさないように、自分なりのリストを作って、いつもそれを見ながらやっています。

私の父親は転勤・転居が多かったため、小さいころからずっと一つの場所にはいませんでした。このため、今でも繋がっている小中高時代の友人は残念がらないのです（ひょっとしたら私が音信不通者となっているのかもしれませんが…）。自己紹介するとき、故郷はどこですか？出身は？と聞かれるのですが、説明するのに時々困惑してしまいます。

このような私の人生で、めずらしく十数年来続けているのが大学関係の同窓会です。毎年1回だけですが、全国各地に散らばっている仲間が東京に集まります。昨年は、ちょうど東日本大震災の直後であったこととその当時の仕事が大変繁忙であったこと、さらに東京に在住していなかったため、参加することができませんでした。本年は東京に転居したため2年ぶりに参加することができました。大げさかもしれませんが、私にとって盆と正月と同様に1年の区切りとなっているのです。

日常業務上どうしても仕方がないことですが、例えば夜のミーティング(?)となるとどうしても仕事上の話を中心となり、ときには愚痴(ストレス発散のため良い面も十分にありますが…)になり、仕事の延長になり、組織における考え・思想となる可能性があるのです(決して否定や批判をしているのではなく、プラスの面では普段聞けないことも聞けるのでいいと思います)。しかしながら、大学関係の同窓会に参加すると仕事では出会うことのない人と話すことによって、違った考えにふれることができ、新鮮な気持ちになり

ます。

会に参加するもう一つの楽しみは、お世話になっている方のお話を聞くことです。これまで私の印象に残ったテーマとして二つありました。

一つ目は、東日本大震災が起きて以降、「絆を大切にしよう」とよく言われますが、一昔前でいう「ナウイ」と同様、単なる流行語として扱われているのではないかと思います。絆と言われても、現実には孤独死・育児の悩みを一人でかかえてしまっている現状が多いことなど厳しい状況があります。「絆」という概念・意義は大切なことなのですが、日常生活に視点を移すと、例えば、柳田國男先生の「ハレとケ」の理論から引用すると、「絆」という言葉をひと時の流行語のように「ハレ」の場面で使うのではなく、我々が生活する日常の「ケ」の部分において、果たして「絆」という言葉を実態に即しているのかを十分に考えて、使わなければいけないのではないかなと思ってしまいます。「心と心をつなぐ絆」は本当に大切なものですが、今一度、「絆」の意味するところを自分自身よく考えていきたいと思っています。

二つ目は、表の舞台・華やかな舞台の後ろには、裏で働いている多くの人の支えがあるということです。全員が表の舞台・華やかな場面で活躍できることは少ないと思います。大半は表に出てこない陰や舞台裏で、人生を送らざるを得ないと思います。そんな中で、ちょっとでもいいから前向きに背伸びをすること、それを一人一人が思えば、その力を合わせれば、きっと世の中が良い方向に向かっていくのではないかと。表の舞台・華やかなところで、なかなか活躍できない私にとって、ちょっとでも背伸びをすることで、ちょっとでもいいので光が見えればいいかと思っています。

